

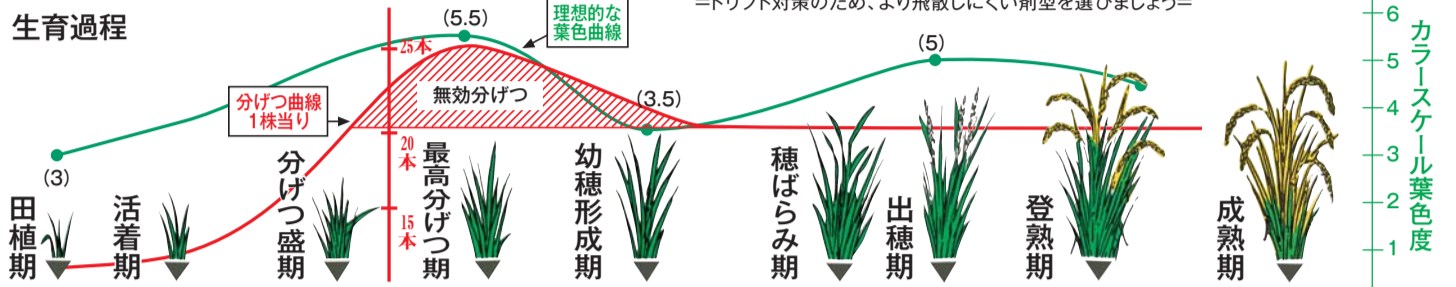
朝日・アケボノ 栽培ごよみ

**おいしいお米の
つくりかたの要点**

- ◎優良品種への統一と種子更新。
- ◎有機物・土づくり資材の施用。
- ◎薄播きと健苗の育成。
- ◎施肥の合理化と、水管理の適正。
- ◎適期防除による減農薬栽培。
- ◎適期収穫と乾燥・調製の適正化。

出穂期・成熟期 (目安)

幼穂形成期	出穂期	成熟期
8・8	9・2	10・23



晩生種	11月~4月	5月	6/15頃	7/上頃	7/下頃	8/8頃	9/2頃	10/23頃
-----	--------	----	-------	------	------	------	------	--------

主な作業と管理の要点(赤字は基幹防除)

水管理	土づくり	育苗箱の消毒	種子消毒	浸種・催芽	播種	育苗管理	除草	追中除	土用干し	穂肥	穂肥	落	刈	脱	乾燥・調製
土づくり資材の施用(別記参照)	育苗箱の消毒 (カブレの恐れがあるのでゴム手袋を着用する。) 苗箱はイチバン乳剤1000倍液に即時浸漬する。	別記参照	別記参照	温度管理に注意(別記参照)	温度管理に注意(別記参照)	初期除草剤(除草剤の使い方参照)	中期中除(除草剤の使い方参照)	中期除(除草剤の使い方参照)	田面に軽く亀裂が入る程度。	第一回・施肥例参照	第二回・施肥例参照	穂揃い後20~35日を基準とする。(早期落水はさける)	適期は刈り取り(青味粉率5~15%)	コンバイン収穫等生脱穀の場合は玄米粒が発生しないよう注意すること。	調整にあたっては整粒歩合80%以上の一等米に仕上げる。 玄米水分を目標15%に仕上げ過乾燥米をなくする。 粉の水分を測定し、張込量・送風温度(外気湿度)送風量に注意すること。

施肥例 10a当り(kg)

- この施肥例は、稚苗・中苗移植を基準にしているため、ポット成苗移植の場合は基肥は控え目に、穂肥は幾分早目に施用する。
- 側条施肥田植機を使用する場合は、基肥の量を20~30%程度減肥する。大豆、レンゲ跡地は基肥を控えめに施用する。
- 土壌条件、品種、栽培型、植付時期、生育状況、天候に応じて施肥時期、施肥量を調節する。
- 土づくりは毎年の実行で効果が高まるので、稲わらは焼却せず、土づくり資材とともに秋季にすき込みを励行する。

◎各施肥例に共通の土づくり資材 (いずれの施肥例にも下記の土づくりを前提とする)

土づくり資材	施用量	施用時期	備考
堆肥(稲わら)	500kg	秋季	石灰窒素を20kg添加し、ミネラルG等の耕土培養資材とともに年内までにすき込む。
ミネラルG	200kg	秋季 荒起前	農閑期に早めに施用する。秋落田・排水不良田により。
とれ太郎	60kg 80kg	荒起前	品質向上のためのケイ酸補給に、少量散布が可能な資材。
アツミン	40kg	基肥	完熟堆肥約1,000kgの腐植酸に相当し地力増進と根の活力増進に役立ちます。

1、省力施肥例 (朝日を基準としているため、アケボノの場合は1~2割程度増量する。)

(1) 1回施肥①

晩生種	肥料名	総量	全量基肥施用	三要素		
				N	P	K
	JA岡山西 晩生用RO22	35	35	7.0	4.2	4.2
	(BM) 苦土重焼燐	10	10		3.5	
	けい酸加里プレミアム34	20	20			4.0
	計			7.0	7.7	8.2

1回施肥②

晩生種	肥料名	総量	全量基肥施用	三要素		
				N	P	K
	ハイエムコート500	30	30	7.5	3.0	3.0
	(BM) 苦土重焼燐	10	10		3.5	
	けい酸加里プレミアム34	20	20			4.0
	計			7.5	6.5	7.0

(2) 2回施用 (朝日を基準としているため、アケボノの場合は1~2割程度増量する。)
(有機質肥料栽培一品種: 朝日を基準)

肥料名	総量	基肥	穂肥	三要素		
				N	P	K
岡山西いちばん	65	35	30	7.8	3.9	4.55
(BM) 苦土重焼燐	10	10			3.5	
けい酸加里プレミアム34	20	20				4.0
計				7.8	7.4	8.55

(緩効性肥料栽培一品種: 朝日を基準)

肥料名	総量	基肥	穂肥	三要素		
				N	P	K
G0264	30	30		3.6	4.8	4.2
F0X444	30		30	4.2	1.2	4.2
(BM) 苦土重焼燐	10	10			3.5	
けい酸加里プレミアム34	20	20				4.0
計				7.8	9.5	12.4

2、低コスト施肥例

晩生種	肥料名	総量	基肥	追肥		穂肥	三要素		
				7月上旬	1回目		2回目	N	P
	PKセーブエコ422	55	20	10	10	15	7.7	6.6	6.6
	計						7.7	6.6	6.6

※晩生種は朝日を基準としているため、アケボノの場合は1~2割程度増量する。
※砂質田等では必要に応じて基肥にPK40号を20kg/10a施用する。

